



ファミリーハウス運動をご理解いただくために

NPO 法人 北海道ファミリーハウス
理事長 松本 脩三
(北海道大学名誉教授)



ファミリーハウスとは日本で名付けられた名称で、先進国アメリカでは、この患者と家族のためのハウスを“ホスピタル”“ホスピタリティー”ハウスと総称しています。

ヨーロッパの伝統社会では「揺り籠から墓場まで」すべてを国家の福祉政策によってきましたが、市民の自立心を重視するアメリカでは早くからこうした互助的なシステムが市民の中に根付いたようです。資金的には企業が提供し、マンパワーはボランティアが担うという形がアメリカの精神風土を如実にあらわすものようです。

ただ現在では、どこの国でも税のみによる福祉には限界が見え、ボランティアの役割が重要になってきたことはご承知のとおりであり、私たちの責任は一層重くなっています。

北海道方式といわれるファミリーハウスの運営は建物の所有者が運動に参加することにより、他の都市とは違い資金力によって室数に限界を生ずることがないため、通院から入院患者までファミリーハウスを必要とする人にご利用いただけるシステムとなっており、新しいファミリーハウスの形態として全国的にも注目されています。

北海道ファミリーハウスは、2000年11月にボランティア団体として設立し、これまで培ったノウハウを活かし、運動をさらに発展強化し、社会的信頼を得るため2007年4月にNPO法人の認証を取得しました。この資料が一助となり、皆様方から多くのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ファミリーハウス運動とは

小児がんなどの難病の治療は、長期間の入院と高度医療(骨髄移植や手術放射線治療など)を受ける必要があります。一方、患者の家族はビジネスホテルやアパートを確保するなど重い経済的・精神的負担を抱えることとなります。このような状況を改善する一方策としてファミリーハウスの運動が進められています。

とりわけ、ハンバーガーチェーンのマクドナルド社(財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス)が造った「ドナルド・マクドナルド・ハウス」は世界的にも有名で、その数は30カ国272カ所になっています。

日本国内における運動の現状は

1991年国立がんセンター中央病院小児科に全国各地から入院していた子供の母親たちが、アメリカの「マクドナルドハウス」の存在を知り、東京にも宿泊施設を…と訴え、運動が始まりました。

92年、血液のがんで亡くなられた息子さんの意志を受け継がれたご両親が建てた「かがる～のおうち」やマンションの一室を提供していただいた「パピーの家」が誕生しました。




北海道における運動の現状は

2002年4月に北海道電力(株)と北海道電力労働組合が50周年を記念して北大病院と札幌医大病院にそれぞれ10室程度のファミリーハウスを建設寄贈する共同事業を行いました。その他、旭川医大病院をはじめ病院併設のハウスが増えつつありボランティアの枠を越え企業運動として高まっています。

NPO法人北海道ファミリーハウスの役割

病院の施設だけでは応じきれない利用者のため、病院周辺で空室となっている物件のオーナーさんとホテルのご協力(社会貢献活動)を得て、ファミリーハウスとして活用させていただき、いまでは子供たちはもとより、一般の患者さん家族にもご利用いただいております。この方式は「北海道方式」と呼ばれ全国的にも注目されています。

全国の滞在施設が検索できます


JHHH ネットワーク
 日本ホスピタル・ホスピタリティー・ハウス・ネットワーク
 —まずはホームページを検索してアクセス！—
<http://www.jhhh.jp>